

『だれにでもわけへだてなく』

多久市立多久中央校 7年 <sup>すえよし</sup>末吉 <sup>はな</sup>巴菜

私は、「だれにでもわけへだてなく」という言葉が心に一番深く残っています。

私は、小学生のときあいさつは自分からしない方でした。されたらするくらいで、それが楽だと思っていたからです。そうした生活を続けていました。ある日の夜、私はおかあさんと話をしていました。家では「おやすみ」という言葉を言わずにねてしまう私についての話でした。

「巴菜はほんとにありがとうとかおやすみとかあいさつをしないね。」

と言われたのです。その時私は少しこわくなりました。なぜなら長い説教が始まりそうだったからです。でも、凶星なのでなにも言えずにだまっていました。その中で出てきて心に残った言葉が、「あいさつしないと友達へるよ」だったのです。その言葉は、さびしがり屋の私にはとても深くささりました。なので、少しでもあいさつしようと心がけました。調度そのころ、学校であいさつ運動があり私はチャンスだと思い参加しました。できるだけ大きな声で、ハキハキとを心がけて。でも、私にはできませんでした。できても礼止まりだった。その中目に止まったのはある一年生の姿でした。その子は体全体に元気さがあふれていて、私の思っていた大きな声で、ハキハキとを難なくこなしていたのです。だれにでも同じ顔、同じ声であいさつをしていたその子に拍手を送りたくなったほどです。その時の風景を今でも思いだせるほど印象に残っ

ています。私はその時感じた名前も知らない私にあいさつしてくれたうれしさと、自分もあんな風になれたらというあこがれの気持ちで幸せを感じていました。私はそれから小学一年生の姿をむねにあいさつをがんばるようになりました。少しずつ声を大きくして行って、数週間後にはあるていどの声であいさつできるまでパワーアップしていました。それから、私の目標はあいさつをするからだれにでも仲良く接するにかわりました。理由はだれにでもおなじように接することでみんなきらわれていると思ったりしないんじゃないかと思ったからです。今まであまり話したことの無い人と話してみると意外としゅみがあったりと自分にとって楽しいと感じれることが増えていきました。まだ少し目標をこえられそうにないけどこれからもだれにでも分けへだてなく接していければいいと思います。家でも自然に「ありがとう」や「おやすみ」も言えるようになってきました。家ではこれから手伝いを増やして「ありがとう」と言われるようになりたいです。

中学校にあがってからあいさつを自分からすることが少しへってきたので小学生を思い出し勇気を出してまた大きな声でハキハキとだれにでも自分からあいさつをしてたくさんの人をあの時の小学生にあいさつされた時のうれしさをみんなに感じてもらいたいと思います。